教育委員会会議の概要（令和６年２月定例会）

◆　日　　時　令和６年２月９日（金）午後９時００分から午後９時３５分まで

◆　場　　所　教育局　第１会議室

◆　出　席　者

教　育　長	福 田　　洋 之	欠席
委員・教育長職務代理者	花 渕　　浩 司	出席
委　　員	川 又　　政 征	出席
委　　員	後 藤　　由 起 子	出席
委　　員	山 田　　理 恵	出席
委　　員	庄 司　　弘 美	出席
委　　員	長 谷 川　　真 里	出席

◆　会議の概要

１　開　　会

２　議事録署名委員の指名　　山　田　　委　員

３　報　告　事　項

（１）「仙台市健やかな体の育成プラン 2024」最終案について

（健康教育課長　報告）

資料に基づき報告

後　藤　委　員　最終案にも記載があるとおり、成長期の子どもの体を作る上で食事はとても大切であると思う。学校給食では未だに前を向いて一人で机に座って食事をとっているところがあるようだと伺っている。そのような状況が続いているため、各学校の判断に任せるのではなく、食事の際のコミュニケーションの大切さも教育であると思うので、給食の際はコロナ禍前の状態に戻してはどうかということを教育委員会から学校へ案内することを検討いただきたいと思う。学校現場にだけ任せていると、感染症対策や保護者からの意見などへの対応のため、前を向いて一人で机に座って食事をとるという状況が続くと思うので、教育委員会が主導して検討してほしい。

健康教育課長　いわゆる黙食と言われている前を向いての食事については、５類移行後には行わなくても良いこととしており、学校にも文書で発出しているが、ご指摘いただいたとおり、まだ学校現場ではそのような状況が続いているところもあるため、機会を捉えて

改めて周知することなどを検討してまいりたい。

（２）「仙台市子ども読書活動推進計画 2024」最終案について

（生涯学習課長　報告）

資料に基づき報告

後　藤　委　員　先日の総合教育会議で庄司委員からも話があったとおり、本を読むことは子どもの学びにつながる大切なことであると思う。知識だけではなく性格形成においても本に触れることはとても大きな影響があると思う。すべての子どもが本を読める機会を確保することは大切である。家庭によっては本離れが進んでいるので、これから先、すべての子どもが本を手に取れる場所である図書館や学校の図書室の需要は高まってくると思う。本プランの策定は素晴らしいと思うが、図書館や図書室の本の充実にも力を入れて欲しい。蔵書が古くならないように、現代に適した新しい本もたくさん発行されているので、そのような本も図書館や図書室に入れて欲しい。家庭以外の場所で、どんな子どもでも本に触れる機会が得られるような機会の確保に尽力していただきたい。

生涯学習課長　指摘いただいたことを踏まえて取り組んでまいりたい。

長谷川委員　別紙１「仙台市子ども読書活動推進計画 2024（中間案）に寄せられた意見の概要と本市教育委員会の考え方について」の４ページの№12 にもコメントがあるとおり、単純に読み聞かせれば子どもが喜び、読書活動につながるというわけではなく、実際のやり取りの中で、子どもの興味関心が開発されていくと思う。そのような意味では、保護者自身が、読書に興味を持ち、読書を楽しむという仕掛けや工夫が必要である。本計画の概要版にも記載されているとおり、保護者の理解促進や家読の充実をお願いしたい。

生涯学習課長　今回、本計画の目的の中に「子どもが他者と関わりながら」という表現を入れている。これは、子どもが親を含めた地域の大人と関わり、みんなで子どもの読書を推進していくという意味である。これまでも推進してきたところであるが、今後も継続して実施してまいりたい。

（３）「史跡仙台郡山官衙遺跡群保存活用計画」最終案について

（文化財課長　報告）

資料に基づき報告

（４）仙台市博物館の再開館について

（博物館長　報告）

資料に基づき報告

山　田　委　員　大規模改修工事前の博物館のミュージアムショップには様々なものが売っており、行くととても楽しく、いろいろなものを買って帰っていた。仙台市として売上目標などは無いと思うが、ミュージアムショップなどを充実させると集客にもつながる。昨

年東京の国立博物館で、はにわのクッションやキーホルダーなどのグッズがとても話題になった。話題になると集客につながるため、売上などではなく、話題作りという意味での情報発信やグッズ制作などに力を入れても良いと思う。

博　物　館　長　今回、ミュージアムショップのリニューアルと合わせて、事業者についても新たに選定した。選定した事業者は、青森県立美術館や福岡市美術館など、全国展開している専門の事業者である。当館の新たなオリジナルグッズなどについても、今までは当館が主体となって企画しなければならなかったが、新たに選定した事業者は企画力や開発力も充実しているため、すでに何点かオリジナルグッズの開発を予定している。ミュージアムショップやミュージアムグッズは話題になることも多いため、それによる集客性という視点は重要であり、来館いただいた方々に楽しんでいただけるような空間にしていきたいと考えている。

５　付　議　事　項

第 38 号議案　　令和６年度の実沢小学校の休校について

（学事課長　説明）

資料に基づき説明

庄　司　委　員　説明資料の中に、未就学児の人口について、１歳児から６歳児の人数が記載されていた。先ほど、来年、再来年で小学校に入学する予定の児童については他の学校を希望しているとの説明があり、今後もその傾向が続くと思った。休校していても実沢小学校の校舎は残っているので、学校の利用については何か検討しているのか。

学校規模適正化推進室長　実沢小学校が休校となって以降、地元の町内会長を始め各種団体の皆様が今後の実沢小学校をどのようにするかという検討会議を立ち上げ、学校の利活用を含め、地域の皆様で検討を進めているところである。教育委員会としては、その協議の支援を行っているが、現在のところ、具体的な結論には至っていない状況である。

原案のとおり決定

６　閉　　会